

# JENESYS<sup>2019</sup>

## JENESYS2019 台湾招へい第2陣の記録 テーマ：東北の食の魅力発信

### 1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2019」の一環として、台湾の大学生・大学院生13名が8月25日～8月31日の日程で来日し、「東北の食の魅力発信」をテーマとしたプログラムに参加しました。一行は、東京都内で政府によるテーマに関する講義を受け、日本における食の安全に対する取り組みについて学び、アンテナショップを訪問し東北の食の魅力について学びました。その後、福島県・宮城県を訪問し、ホームステイ体験、食の安全に取り組む施設の視察や被災地への訪問を行い、日本に対する理解を促進するとともに、東北の食の安全や魅力発信について関心を高めました。一行はプログラム中、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて対外発信を行いました。また、帰台後の報告会では、訪日経験を活かした今後のアクション・プラン（活動計画）について、発表しました。

【参加地域・人数】 台湾 13名

【訪問地】 東京都、福島県、宮城県

### 2. 日程

8月25日（日）

- － 来日
- － 【視察】福島アンテナショップ「日本橋ふくしま館-MIDETTE」
- － オリエンテーション

8月26日（月）

- － 【表敬】公益財団法人日本台湾交流協会
- － 【講義】農林水産省（テーマ：放射性物質に関する日本における食品安全性確保）
- － 【講義】厚生労働省（テーマ：食品中の放射性物質の対策と現状について）
- － 福島県へ移動
- － 【視察】福島県農業総合センター（テーマ：農林水産物の緊急時環境放射線モニタリングについて）
- － 【体験】ホームステイ

8月27日（火）

- － 【体験】ホームステイ
- － 【体験】地元野菜を使ったピザづくり体験

－ 【視察】JA 愛情館

8月28日（水）

- － 【視察】福島県相馬市（相馬双葉漁業協同組合、慰靈碑、鎮魂祈念館、馬港湾建設事務所、防災備蓄倉庫、消防団慰靈碑磧部メガソーラー、松川浦大橋、大洲海岸等）
- － 【講義】報徳庵（テーマ：復興レストランについて）
- － 【講義】ホテルみなとや（テーマ：震災後の旅館組合の取組みについて）
- － 【視察】フレスコキクチ鹿島店

8月29日（木）

- － 【視察】相馬総合地方卸売市場
- － 【視察】JA ふくしま未来相馬中村営農センター
- － 【視察】道の駅 伊達の郷りょうぜん
- － 【訪問】福島民報社
- － 【訪問】福島テレビ放送

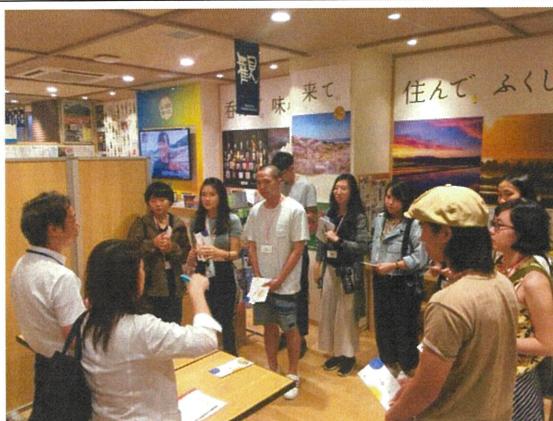
8月30日（金）

- － 【交流】地元学生との交流
- － 【視察・体験】あづま果樹園

8月31日（土）

- － 宮城県へ移動
- － 【視察】仙台市荒浜小学校
- － 離日

3. プログラム記録写真



8月25日【視察】

福島アンテナショップ

「日本橋ふくしま館-MIDETTE」

8月26日【表敬】

公益財団法人日本台湾交流協会



8月26日【講義】

農林水産省及び厚生労働省

8月26日【視察】

福島県農業総合センター



8月27日【体験】

ピザづくり体験

8月27日【視察】

JA愛情館



8月28日【視察】

福島県相馬市

8月29日【視察】

相馬総合地方卸売市場

	
8月29日【訪問】 福島テレビ	8月30日【交流】 地元学生との交流
	
8月30日【視察・体験】 あづま果樹園	8月31日【視察】 仙台市荒浜小学校

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

##### ◆ 大学生

私は、以前はいつも東京にばかり行っていましたが、この機会に東北の福島に来ることが出来てとても幸せです。福島での生活はゆったりしていて、せかせかしていません。人々もとても礼儀正しいです。台湾は昨年の国民投票で福島の食品輸入を禁止しました。私もこの件に関心を持っていましたが、国民が目にするのはインターネット上の間違ったニュースばかりでした。私は福島の人々の本当の考え方や生活をみんなに伝えたいです。私は農園で彼らが苦労して育てた桃を見ました。一つ一つが甘くみずみずしく、故郷を取り戻そうとする彼らの忍耐力を尊敬します。彼らの元の生活が戻るよう願っています。

##### ◆ 大学生

この福島への訪問は感動と思い出に満ちていますが、この数日間、にぎやかな東京、温かいホストファミリー、努力される農家のご主人等、日本のさまざまな面を経験しました。日本の生活はとても便利で、人々も非常に謙虚で、例えば、今回の活動で出会ったドライバー、サービススタッフ、ガイド等積極的に自分の職務で努力される方

に出会い、このような社会全体の雰囲気には学ぶべきところがあると思いました。今回の訪日中に地震と復興の大変さを知ることができました。しかし、過去がどれほど辛かったとしても福島は活力を取り戻していました。福島の子どもたちがこの地で学び大きくなり、福島の土地も再び成長しました。福島が将来ますます発展し、過去よりもさらに繁栄することを願っています。

## 5. 受け入れ側の感想（抜粋）

### ◆ 福島テレビ

限られた時間ではありましたが、福島県と復興の状況が少しでも伝えられましたら幸いです。こちらもとても刺激を受けました。今後とも同様の機会がありましたらぜひお声掛けください。